

2026年3月3日 皆既月食を見よう！

毎日何気なく見ている月は、日毎に形が変わっていきます。ところが、その日のうちに満月からだんだん欠けていき、やがてまた満ちていく「月食」という天文現象があります。

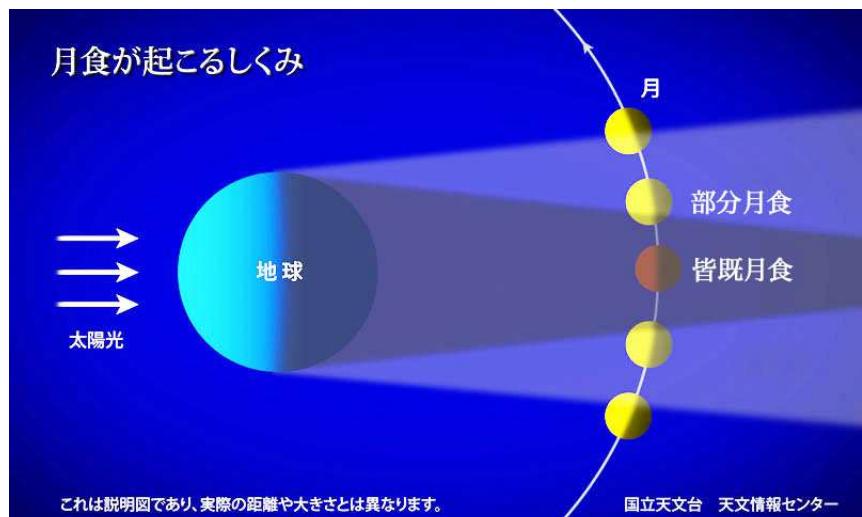
2026（令和8）年3月3日（火）、伊丹では宵の東の空で皆既月食が見られます。2022年11月8日の皆既月食は伊丹市内からでもよく見えました。この時はさらに皆既中の月に天王星が隠されるという442年ぶりの天文現象も話題になりました。2025年9月8日にも皆既月食がありましたが、真夜中を過ぎた後に起こったため、多くの方は見ることが難しかったかもしれません。今回の月食は日没後間もなく起こるため、たいへん見やすい月食といえそうです。

宵の空ということもあり観察しやすい時間帯ですので、東の空が開けたところでご覧ください。

【月食がおこるわけ】

太陽・地球・月が一直線上に並ぶとき、太陽に照らされた地球の影の中に月が入ると、影の部分が暗くなり月が欠けて見えます。これが月食です。月の一部分が欠けると「部分月食」、月の表面すべてが影の中に入ると「皆既（かいき）月食」となります。

皆既中は月がまったく見えなくなるのではなく、少し赤みを帯びて見えます。これは、地球の大気層を通過した太陽光が月を照らすためです。



【今回の月食の見どころ】

(伊丹市にて)

3月3日の伊丹での日没時刻は午後5時57分。東の空にはすでに月が昇ってきています。その約1時間後の午後6時50分に月食が始まります。月の左側から欠けていき、午後8時過ぎには皆既月食となります。今回はこの皆既の状態が1時間ほど続き、午後9時を過ぎると少しずつ本来の月の明るさを取り戻していきます。午後10時18分には、満月に戻ります。

【月食の観察のしかた】

一刻一刻と変化していく月の姿を眺めるのは月食ならではの楽しみです。月を隠すのは地球の影のため、月の欠け際はくっきりしていません。望遠鏡でじっくり観察していると、たいへんゆっくりですが、宇宙空間にのびる地球の影が満月の表面を移動していくようすがわかります。10分おきに

月の出	17時45分	月の高度 0度
部分食の始め	18時50分	12度
皆既食の始め	20時04分	26度
食の最大	20時34分	32度
皆既食の終わり	21時04分	38度
部分食の終わり	22時18分	50度

月の形をスケッチしていくのもよい観察記録になります。

皆既月食になると、少し赤みがかった丸い月となります。その明るさは月食ごとに異なり、時には姿が全く見えなくなるほど暗くなることもあります。大気中に含まれるチリなどの影響も受けやすいため、空の透明度を測る目安にもなります。(2025年9月の月食はたいへん暗い皆既月食でした)

月が欠けている姿を写真に撮って記録することもできます。比較的低空で起こるので、風景と一緒にカメラやビデオで撮影してみるといいかがでしょう。撮影の仕方については、関係する書籍やホームページで調べてみましょう。最近のスマートフォンも高性能になっていて、赤く染まった神秘的な月が撮影できるかもしれませんよ。

さて、今回はどんな姿を見てくれるでしょうか。みなさんご自身で確かめてみてくださいね。



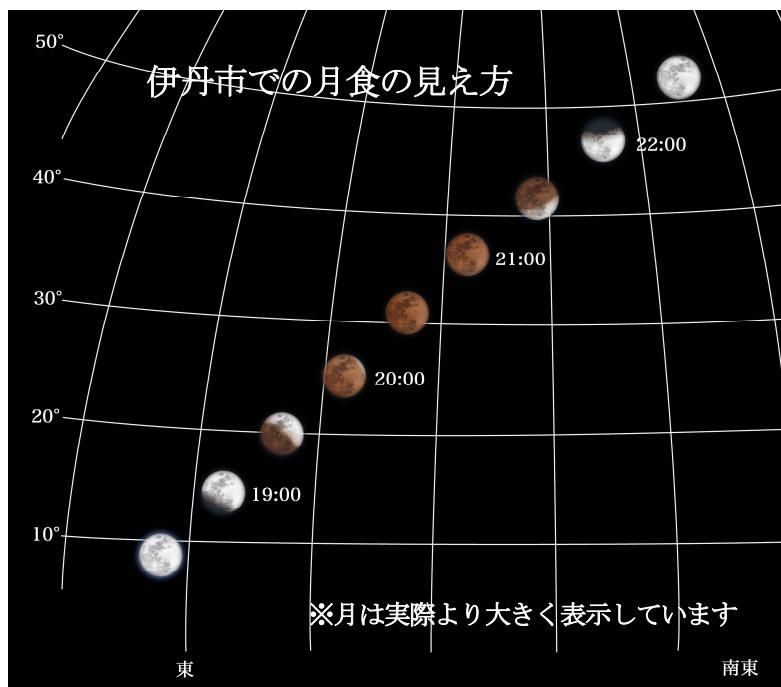
<皆既月食になる前の部分月食の姿>



<2025年9月8日未明の皆既月食>



<皆既月食と伊丹空港>



3月3日(火) 19時～21時

三軒寺前広場にて「月食観望会」を実施します。時間内ならどなたでも予約なしでご参加いただけます。

(雨天中止)

くわしくはホームページをチェック！



こども文化科学館の
月食関連ページ

伊丹市立こども文化科学館

〒664-0839 兵庫県伊丹市桑津3-1-36 (電話) 072-784-1222